



ふくろうの郷

施設長だより

令和8年8月号

「受け継がれてきたもの」

7月は、そこまで「暑い!」と感じる日はなかったような気がします。羅臼らしいといえば、羅臼らしい夏だったのかもしれませんが。とはいえ、最近の羅臼でもエアコンの普及率が高くなってきているそうです。備わっていると、「あるなら使いたい」と思うもので、少し蒸し蒸しするだけでも、つい「ドライ」をかけてしまいます(笑)。

さて、もうすぐお盆を迎えます。きゅうりとナスを使って馬と牛を作り、ご先祖様をお迎えする時期です。

今年、私の父の三十三回忌を行いました。父は42歳で亡くなりましたので、もうすぐ私は、父よりも10年長く生きることになります。父よりも長く人生を経験し、年齢を重ねているはずなのですが、「生きていたら、今頃どのような人生を送っていたろう」と考えると、寂しい気持ちが込み上げ、今でも涙が出ることがあります。33年が過ぎても、私が父より10歳年上になっても、父はいつまでも父なのだと思います。

お盆は、亡くなった方を思い出すとともに、自分のルーツを振り返る大切な機会です。自分が生まれてきたことに感謝し、ご先祖様が代々積み重ねてきたものが、今の自分へと引き継がれていることを改めて感じる時間でもあります。

帰ってきた父やご先祖様が、今の私の生活を見て、がっかりするのではないかと少し心配にもなりますが、自分はどのように生きているのか、これからどのように生きていきたいのかを見つめ直し、気持ちを新たに歩き始める機会にしたいと思っています。

ふくろうの郷で生活されている入所者様も、長い年月にわたり羅臼町を支え、家族を守り、今の町を築いてくださった大切な方々です。お一人おひとりに、これまで歩んでこられた人生があり、大切なご家族や、受け継いできた思いがあります。

私たちは、町民の一人として、そして生活を支える職員として、その人生に感謝と敬意を持ち、これからもお一人おひとりの歩みを大切にしながら、日々の生活を支えていきたいと考えております。

施設長 米井